

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 18 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24320147

研究課題名(和文) 東アジアと日本の「西洋史学」 史学史的再考

研究課題名(英文) "Western History" in Japan and East Asia: historiographical reconsideration

研究代表者

小山 哲 (Koyama, Satoshi)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：80215425

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本における「西洋史学」の過去と現在を史学史的な視点から再考すると同時に、「西洋史学」を東アジアに固有の学問領域として捉え直すことによって、国境を越えた研究者間の交流と議論の場を構築することを目的として行なわれた。各年度に研究会を実施したほか、公開シンポジウム、国際会議を主催した(詳細については、添付した研究成果報告内容ファイルを参照)。最終的な成果の一部は、『思想』(第1091号、2015年3月)に特集「東アジアの西洋史学」として掲載されている。また、日本と韓国の西洋史研究者の交流の場として「日韓西洋史フォーラム」を組織した。

研究成果の概要(英文)：More than one hundred years have passed since the "Western history" as a discipline of historical studies had been established in the Japanese academic world. Nobody may deny the contributions by historians of "Western history" to the development of the social sciences and humanities in Japan since the Meiji-period. On the other hand now we are aware of all sorts of problem which are inherent in this discipline. In this research project we tried to reconsider the development and the present conditions of the "Western history" from perspective of East Asian modern historiography. We organized several conferences and symposium in each year, in which we invited historians of "Western history" from South Korea. Part of the results was published on the journal "Shiso" (no. 1091) in 2015. We also started the "Japanese-Korean Forum of "Western History" as a platform of discussion between Japanese and Korean historians studying "Western history".

研究分野：西洋史学

キーワード：西洋史学 史学史 東アジア グローバル・ヒストリー トランスナショナル・ヒストリー

1. 研究開始当初の背景

「西洋史学」という学問分野が日本に成立してから、1世紀余りが経過した。この間の西洋史研究者による研究の蓄積と学問的貢献はあきらかであるが、「西洋史学」という学問分野の成立と展開の経緯、研究の視角や手法の変遷と東アジアの中で日本がおかれた時代状況とのかかわり、欧米の研究成果を摂取するさいの選択と排除の基準などの諸問題については、西洋史の研究者自身が十分な知見をもちあわせないまま個別の研究に従事しているのが実情であった。

2. 研究の目的

「西洋史学」は近現代の東アジアに固有の歴史的な構築物であり、19・20世紀にこの地域がおかれた状況に応じてその学問的な可能性と、学問内外の諸条件に由来する制約性は変化してきた。学問分野としての「西洋史学」は、歴史学がとり扱う空間を「日本史学」・「東洋史学」・「西洋史学」に三分割した結果として成立したものである。このような三区分体制は日本と韓国の歴史学に共通してみられる。東アジアにみられる歴史空間のこのような分割法は、わたしたちの歴史認識をどのように規定し、拘束してきたのであろうか。現時点で、歴史学の三区分編制と、それを前提とする「西洋史学」に、どのような積極的な意味を認めることができるであろうか。これらの問いは、したがって、日本の近代史学史の問題であると同時に、東アジアの歴史学の問題でもある。

本研究プロジェクトは、以上のような問題意識にもとづいて日本の「西洋史学」の形成の過程と現在の状況を東アジア史学史の文脈のなかに位置づけ、今後の研究の方向性を展望するために企画・実施されたものである。

3. 研究の方法

(1) 本研究の代表者と分担者が集まる研究会を開催し、相互に研究の経過を報告して議論すると同時に、浮上した問題点をふまえて研究の進め方について検討を加えた(平成24年度に2回、25年度に1回、26年度に1回、それぞれ開催)。これらの研究会では、アジアからの留学生による各国の歴史教育をめぐる現状報告、中国史の専門家によるレクチャーも企画し、東アジアの文脈のなかで西洋史学の問題をとらえることを試みた。

(2) 韓国の西洋史研究者との研究交流を進めるため、共同でワークショップとシンポジウムを開催した(平成24年度にソウルで1回、25年度に京都で2回、26年度にソウルで1回開催)。また、日韓の西洋史研究者の交流を継続するために「日韓西洋史フォーラム」を組織した。

4. 研究成果

(1) 本研究が主催した国際的な会議・シンポジウムは次のとおりである。

【平成24年度】

11月11日 研究会(京都大学)
テーマ:「留学生の視点から見る東アジアの「西洋史学」」

企画:長谷川まゆ帆

報告:チャン・サウイー「香港、シンガポールにおける歴史教育」

チョ・スピン「韓国における歴史教育」

チョウ・アシン「中国山東省における歴史教育」

以上3名の報告者はいずれも東京大学総合文化研究科に在籍する留学生

長谷川まゆ帆「日本の場合」

12月1日 プレ・シンポジウム・イン・ソウル(漢陽大学)

テーマ:「韓国と日本の「西洋史学」」
(“Western History” in Korea and Japan)

報告:Lim Jie-Hyun, “World history as a nationalist rationale: on patriotic world history and its consequential Eurocentrism in Japan and Korea”

小田中直樹, “Nineteenth-century European history studies in postwar Japan”

小山 哲, “The controversy on the “crisis of the seventeenth century” from the perspective of Japanese historiography”

【平成25年度】

5月11日 第63回日本西洋史学会大会
公開シンポジウム(京都大学)

テーマ:「東アジアの「西洋史学」 国境を越えた対話をめざして」

基調講演:イム・ジヒョン「国民史の布石としての世界史 日本と朝鮮における「愛国的世界史」と、その結果として生じるヨーロッパ中心主義について」

コメント:小田中直樹、橋本伸也、長谷川貴彦、佐々木博光、長谷川まゆ帆

司会:小山 哲

5月13日 アフター・シンポジウム・イン・京都(京都大学)

テーマ:公開シンポジウムをふまえた自由討論

司会:イム・ジヒョン、小山 哲

12月17日 日韓西洋史フォーラム(京都大学)

報告:長谷川まゆ帆, “The challenge of social history in Japan: its new perspectives in history”

コメント:Lim Jie-Hyun (Hanyang Univ.), Kim Hyun Sik (Hanyang Univ.), Park Jinbin (Kyung Hee Univ.), Kim Sangsoo (Hankuk Univ. of Foreign Studies), Oh Kyunghwan (Sungshin Univ.), 橋本伸也

司会:小山 哲

【平成26年度】

2月23日 日韓西洋史フォーラム(ソウル、西江大学)

テーマ:「今後の日韓西洋史研究者の交流をめぐって 日本の若手研究者からの提言」

提言:福元健之、安平弦司(いずれも京都大学・文学研究科・博士後期課程)

司会:Lim Jie-Hyun、小山 哲

(2) 以上の研究会・シンポジウム・フォーラム等における報告と討論をふまえた研究成果は本科研のメンバーによる論文・学会報告等

にさまざまなかたちで反映されているが、とくに直接的に本研究プロジェクトの内容にかかわる主要な研究成果として次の2点がある。

『思想』(第1091号、2015年3月)特集「東アジアの西洋史学」〔小田中直樹「東アジアの西洋史学と「グローバル・ヒストリー」(2-5頁); イム・ジヒョン「国民史の布石としての世界史—日本と朝鮮における「愛国的世界史」と、その結果として生じるヨーロッパ中心主義について」(翻訳・訳者解説: 小山 哲)(6-32頁); 橋本伸也「多重化された「東・西」と歴史認識問題」(69-91頁)〕
長谷川まゆ帆、「Challenges of “social history” in Japan: new perspectives in history”, *Odysseus: 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要*, 第19巻, 2014年, 49-65頁

(3) 以上のような史学史的・歴史理論的な考察とそれをめぐる研究者間の対話、およびその結果の公表と並んで、本研究プロジェクトのもう1つの重要な成果は、日本と韓国の西洋史研究者の研究交流の場として「日韓西洋史フォーラム」(Japanese-Korean / Korean Japanese Forum of “Western History”)を準備し、会議を開催したことである。この国際会議については、2012年(平成24年)12月にソウルの漢陽大学で開催された「プレ・シンポジウム」と、翌2013年(平成25年)5月に京都大学で開催された日本西洋史学会大会の公開シンポジウムをつうじて日韓の関係者のあいだで話し合いがもたれ、実現に向けての具体的な合意が成立した。「日韓西洋史フォーラム」の名称を掲げての国際会議は、同年12月に京都で、また、2015年(平成27年)2月にソウルで行われた。

これらの会議の場では、東アジアの「西洋史学」にかかわるさまざまな史学史上・歴史理論上の問題が検討されただけでなく、日韓の「西洋史学」の将来を見据えながら若手研究者に発言と交流の場を提供することにも力が注がれた。2013年(平成25年)12月15・16日に京都大学文学研究科で開催された「日韓西洋史若手研究者ワークショップ」には、本科研によって「日韓西洋史フォーラム」(12月17日開催)に招聘された韓国の研究者5名も、シニア・メンバーとして参加している。また、2015年(平成27年)2月にソウルで開催された「日韓西洋史フォーラム」では、日本の若手研究者2名による提言をめぐって日韓の西洋史研究者間の意見交換が行われた。

本科研プロジェクトをきっかけとしてはじめた「日韓西洋史フォーラム」は、今後も継続していくことが関係者のあいだで合意されている。現在、本年(2015年・平成27年)11月に関西学院大学で、また、来年(2016年・平成28年)4月にソウルの西江大学で「日韓西洋史フォーラム」を共催者とする国際会議を開催するための準備が進行中である。国際会議を開催するための資金や準備にかかわるマン・パワーの不足など、さまざまな問題は残されているが、日本と韓国の学術的な交流のいっそうの発展のために努力を続けていきたい。

(4) 本研究プロジェクトにとって、イム・ジヒョン教授(2015年2月まで漢陽大学・比較歴史文化研究所所長、2015年3月より西江大学教授)の研究上の協力と助言は、決定的に重要であった。深く考え抜かれ、ときとして挑発的な彼の発言に刺激されて対話を重ねることによって、本科研のメンバーは本プロジェクトにかかわるそれぞれの研究を進めてきたと言っても過言ではない。イム教授の「世界史」・「西洋史」にかんする見解は(2)に挙げた『思想』に掲載された論考に示されている。本研究に示された理解と協力に対して、イム教授にあらためて謝意を表す。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 15 件)

長谷川貴彦、パーソナル・ナラティブ論の射程—現代歴史学の課題と展望、『多宗教・多文化の歴史研究所ディスカッション・ペーパー』、査読なし、2012、41-362。

橋本伸也、帝政期の教育と社会、ロシア史研究会編『ロシア史研究案内』彩流社、査読なし、2012、71-82。

橋本伸也、歴史と記憶の政治—エストニアの事例を中心に、塩川伸明他編『ユーラシア世 記憶とユートピア』東京大学出版会、査読なし、2012、127-155。

小山 哲、国境を越えて歴史認識を議論するために(韓国語)、『日本空間』(国民大学校日本学研究所、ソウル) 査読なし、第14巻、2013、59-73。

小田中直樹、比較史の復活へ、『東北大学 TERG ディスカッションページ』、査読なし、第309巻、2013、1-13。

橋本伸也、「戦後史学」の捉え方、『ゲシヒテ』、査読なし、第7巻、2014、59-70。

長谷川貴彦、文化史研究の射程、『思想』、査読なし、1074号、2013、6-20。

長谷川まゆ帆、オーラルとエクリの間—近世期ヨーロッパの“個人の語り”とその変容、ODYSSEUS (東京大学大学院総合文化研究科紀要) 査読なし、第17巻、2013、59-89。

小田中直樹、東アジアの西洋史学とグローバル・ヒストリー、『思想』、査読なし、1091号、2015、2-5。

橋本伸也、多重化された「東・西」と歴史認識問題—ヨーロッパにおける歴史・記憶紛争を素材として、『思想』、査読なし、1091号、2015、69-91。

橋本伸也、歴史と記憶の政治とその紛争化—中東欧・ロシアにおける歴史認識問題とそのグローバル展開、『歴史学研究』、査読なし、931号、2015、41-48。

長谷川まゆ帆、Challenges of “Social History” in Japan: New Perspectives in History, ODYSSEUS (東京大学大学院総合文化研究科紀要) 査読なし、第19巻、2014、

49-65.

佐々木博光、近世ブランウンシュヴァイク公国における財団・基金の歴史—財団・基金の宗派・地域史に向けて、『史林』、査読あり、98巻3号、2015、(掲載決定済、頁数未定)

長谷川貴彦、エゴ・ドキュメント論—欧米の歴史学における新潮流、『歴史評論』、査読あり、777号、2015、47-59.

小山 哲、訳者解題「イム・ジヒョン」『国民史の布石としての世界史』、『思想』、査読なし、1091号、2015、6-10.

〔学会発表〕(計 11 件)

小山 哲、Discussion panel: A historian in the public space, The 2nd International Congress of Polish History, 2012/9/13, Auditorium Maximum of Jagiellonian University, Krakow, Poland、招待講演.

小山 哲、東アジアの「西洋史学」—国境を越えた対話をめざして(企画・司会)、第63回日本西洋史学会、2013年5月11日、京都大学

小田中直樹、コメント: グローバル時代にあつて歴史とはなにか、第63回日本西洋史学会、2013年5月11日、京都大学、招待講演

佐々木博光、コメント: 自称ひとりオクシデンタリストの突破りの逆オリエンタリズム、第63回日本西洋史学会、2013年5月11日、京都大学、招待講演

橋本伸也、コメント: 二重化された「東西」問題/歴史と記憶の紛争、第63回日本西洋史学会、2013年5月11日、京都大学、招待講演

長谷川貴彦、コメント: 東アジアの西洋史学、第63回日本西洋史学会、2013年5月11日、京都大学、招待講演

長谷川まゆ帆、コメント: 歴史認識の問い直しに向けて、第63回日本西洋史学会、2013年5月11日、京都大学、招待講演

橋本伸也、日本における戦後史学の歩み—望田幸男氏の場合(望田講演へのコメント)、ドイツ現代史学会、2013年9月21日、福岡大学、招待講演

長谷川まゆ帆、Challenges of “Social History” in Japan: The New Perspectives in History、日韓西洋史フォーラム、2013年12月17日、京都大学

小田中直樹、グローバル・ヒストリーの史学的位置、日大史学会、2014年6月21日、日本大学文理学部、招待講演

長谷川貴彦、グローバル時代の歴史学を考える、国際シンポジウム「グローバリズムと現代歴史学」()「国民国家論と民衆史」、2014年10月19日、立命館大学、招待講演

〔図書〕(計 2 件)

長谷川貴彦 他、歴史学のアクチュアリテイ、東京大学出版会、2013年、267頁

長谷川貴彦 他、歴史として、記憶として、

御茶の水書房、2013年、341頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小山 哲 (KOYAMA, Satoshi)
京都大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号: 80215425

(2) 研究分担者

小田中直樹 (ODANAKA, Naoki)
東北大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号: 70233559

佐々木博光 (SASAKI, Hiromitsu)
大阪府立大学・人間社会学部・准教授
研究者番号: 80222008

橋本伸也 (HASHIMOTO, Nobuya)
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号: 30212137

長谷川貴彦 (HASEGAWA, Takahiko)
北海道大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号: 70291226

長谷川まゆ帆 (HASEGAWA, Mayuho)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号: 60192697